



1920年(大正9年)17歳
第一高等学校理科乙類入学

2

自転車遊び

「薫^{かお}ちやがえらくなるのはわかっていた。」

浅川町のあるお年よりは、お酒を飲むと必ず、自まんそうにこの話を始めます。それは、このお年よりの少年時代の思い出にまつわる話です。

「うわあ、乗れた乗れた。」

「また、ころんだあ。」

小学校の校庭から楽しそうな声がひびいてきます。中学生ぐらいの男の子を中心に、何人かの子ども達が、一台の自転車を囲んで遊んでいます。

この中学生の名前は「薫^{かお}ちや」こと、吉田富三少年です。勉強が好きで東京の中学校に通っているのですが、休みを利用して生まれ故郷^{こきやう}である浅川村(今の浅川町)に帰ってきているのです。

そのころは、まだめずらしかった自転車を、富三は家から持ち出して、村の子ども達の遊び相手になってやっていますのでした。めったに乘ることのできな